

東京大学史料編纂所附属 画像史料解析センター 通信

第91号 2021年1月

目	次
巻頭図版 制作途中の写真油絵	画像でつなぐ歴史学と情報学
東京大学史料編纂所新収『明月記』断簡について (遠藤珠紀) …… 2	— 深層学習を活用した画像史料解析の事例紹介 — (大山 航) …… 18
歴史資料・写真フィルム原板の史料学—松重美人 の被爆写真ネガフィルム— (谷 昭佳) …… 5	データ駆動型歴史情報研究基盤の構築に向けて (中村 覚) …… 21
「簡牘字典—史語所蔵居延漢簡資料庫」の紹介 (劉 欣寧) …… 14	料紙研究の最新手法と成果 (渋谷綾子) …… 27
歴史情報研究の展開—文理融合研究のかたち— (高橋敏子) …… 18	文献案内 …… 31
	画像史料関係文献目録 …… 35
	活動抄録 …… 36

画像は本誌をご覧ください。

画像は本誌をご覧ください。

制作途中の写真油絵2点 (高田屋嘉兵衛資料「横山松三郎関係資料」、高田菜々所蔵)

横山松三郎らによる写真油絵は、写真と絵画、そして職人的な手業がひとつとなった技法である。まず鶏卵紙写真を薄く画像が透けて見える状態にまで削りガラス上に貼る (写真左)、その後に鶏卵紙の画像上に直接油絵具で色を付ける (写真右)。この上にもう1枚薄く削った同じ鶏卵紙写真を重ねる、或いはガラスから剥がして別の台紙に貼るなどして鑑賞した。従来、鶏卵紙の裏から彩色したと伝えられていたが、実際には様々なバリエーションがあるようだ。今後、この幻の写真技法による写真油絵の制作を各分野の専門家と一緒に取り組みたいと考えている。

(谷 昭佳)